

夏休みの

詩と作文コンクール

夏休みの生活をふり返って、

詩や作文を書いて送ってください。



★募集作品 詩と作文

- ・題材 夏休みの生活から生まれたもので、題は自由
- ・文字数 作文：原稿用紙2～3枚程度（四〇〇字原稿用紙）
- 詩 …… 30行程度

★しめきり 9月10日（木）

★審査 岐阜県小中学校長会で審査します。

★表彰 入賞者（特選・佳作・入選）に賞状をおくりします。

★送り先 〒500-8816 岐阜市菅原町三（岐阜県校長会館）

「夏休みの詩と作文コンクール」係

おほ 応募の 注意

- ① 作品は自作、直筆（コピー不可）のもので、今までに発表していないもの。
 - ② 応募は、1部門1人1点とする。
 - ③ 作品には、部門・題名・学年・氏名（漢字にはふり仮名をつける）・郡市名・学校名と先生の名前を書くこと。
 - ④ 作品は、返却しません。
 - ⑤ 応募作品の著作権は、岐阜県小中学校長会に帰属します。
 - ⑥ 特選・佳作作品は、作品集『ぎふの子』としてまとめます。
- 入賞作品は、岐阜県校長会館発行の出版物で紹介することもあります。
- 募集要項に合っていない作品は、選外になることがあります。

友だちの作品

わたしの集中の時間

羽島市 中島小学校 足名 花音

せすじをピンとのぼして
筆先にぼくじゅうをたつぷりをつける
真っ白な半紙に大きく字を書く
おけいこ中は正さでじつとすわる

トン、シューツ

トン、スーキュツ

一筆ごとに真っ黒なぼくじゅうをつけて
一かくごとにていねいに書く

トン、スググッスーッ

もう一度ぼくじゅうをつけて

手首を回さずグルーックルッ

「お丸は小さくね。」

と、先生は言うけれど、むずかしいなあ

だんだん足がしびれてきた

じつと正さみたいへんだな

先生は赤いぼくじゅうで花丸をくれる

「うまいな。上手だよ。」

わたしはうれしくなる

「ここはこうすると、もっと上手になるよ。」

と、先生が教えてくれる

先生の言葉はま法みたい

もうつかれて、いやだなあと思っていたのに

もう少しがんばれるわたしにかわった

練習した半紙がふえてくると

わたし今日がんばってるな、と思う

よし、もっと上手になって

もっと先生にほめてもらうんだ

そして、きょう年のわたしを追いこすぞ